

# えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

November 2019

Écoutez Bien Vol.36 No.416

11

100年を目指す「一纏」



表紙の人／加藤竹材籠店三代（柴崎町）



## 立川深層 ②

# 立川はなぜ「立川」なのか

案内人：豊泉喜一氏

横山に見立てられた多摩丘陵と縦に流れる多摩川（関戸橋から撮影、鉄橋を渡るのは京王線）

今月号から「続・砂川深層」に続き「立川深層」と題して、激しい時の流れの中で失われてゆく歴史や文化について探っていければと思います。

日ごろ私達はなんの疑問も無く立川といっていますが、立川という地名はどのような由来で、いつから使われてきたのでしょうか。まず、諸説ある立川の地名について。立川市史にある「立川の語源」という項では、語源の根拠となる資料はほとんどありません。しかし、万葉集の防人の妻が作ったとされる歌「赤駒を山野にはかし捕りかにて多摩の横山徒歩ゆか遣らむ」を根拠に、武蔵の国府である府中の南に連なる多摩丘陵を横山に見立て、そこに東西に縦に流れる多摩川を「縦の川」とし、それが立川に変化したものとの推論が載せられています。後に立川一中の元校長 保坂芳春先生が書かれた「立川の地名」でもこの説をとっておられます。

また立川は館川<sup>たてかわ</sup>であり、かつての立川郷を所領していた立川氏が普濟寺に居館を構えていたことにより立川となったとの説もあります。しかし当時の豪族は、所領している土地の名称を苗字とする風習があり、立川氏は所領していた立川郷という地名を苗字にしたもので、立川の地名は立川氏に由来するものではないと考えられます。そもそも立川という地名が文献に現れるのは、今からおよそ900年前、「吾妻鏡」という鎌倉幕府87年間の事跡を書いた史書の中です。歴仁元年（1238）將軍頼経が上洛する隋兵の中に、立河兵衛尉<sup>ひょうえのじょう</sup>という名が見えるのが最も古いとされ、この頃は「立川」ではなく「立河」の字が使われています。この立河氏は武蔵七党日奉党<sup>ひまつり</sup>の西党に属し、立川郷といわれた地域を所領していたと思われます。

また康正元年（1455）と永正元年（1504）の2回、立河原の合戦が行われ、この合戦の戦死者を供養した鉦鼓<sup>しょうこ</sup>に武州立川原と刻まれており、これらを考えると立河郷という地域はかなり広く、それがどこかは不明で現在の立川周辺には立河又は立川という古地名はありません。

次に「柴崎村」という地名は、天正14年（1586）に作られた八幡神社本地仏阿弥陀如来の背中に、武州多東郡立川郷柴崎村とあり、江戸時代は柴崎村の地名が使われていました。



八幡神社本地仏像（諏訪神社蔵）  
仏像の背面に「武州多東郡立河郷芝崎村」と記されている

しかし、明治11年（1878）7月22日、新政府が郡区町村制を制定し、柴崎村は神奈川県北多摩郡柴崎村になりました。（明治26年東京府編入）

ところが同じ北多摩にもう一カ所、現在の調布市に同じ柴崎村があって混乱が起き、何かと不都合が生じたため明治13年（1880）柴崎村を立川村に改めたいと申請、一度は却下されましたが再度出願し、明治14年（1881）3月7日許可が出て立川村となりました。その時の訴状を見ると、柴崎村は旧来より立川村と呼ばれていたため、この名前に変えたいと書かれており、この結果、柴崎村は立川村に変わって、今年で138年になります。



調布市柴崎にある柴崎稲荷神社参道入口の碑



「立川に育まれて⑧」

# 令和元年 阿豆佐味天神社例大祭 太鼓巡行

「百年後の「纏」を目指して」

令和元年九月十五日。

「纏」と染め抜かれた揃いの半纏。

早朝から夕刻まで、氏子が待つ地域を巡行した大太鼓。勇壮だった。

——今年の阿豆佐味天神社例大祭は太鼓巡行でした。お疲れさまでした。

**内野** 無事に終わってよかったです。いつもはお神輿を担ぐのですが、この度は阿豆佐味天神社の御鎮座三百九十年ということで、平成二十九年二月二十八日に初めて役員会を開き、そこから九百三十日目で太鼓のお披露目巡行を迎えることができました。けが人もなく本当に何事もなく終わって、宮司も「魂が入った」と喜んでいらっしゃいましたよ。

——大きな太鼓でしたが、あの素材はなんとという木なのですか？

**内野** 南アフリカ産のブビンガという木を使っています。雨の少ない地域の木なので硬いと思いますよ。

地域の氏子総代さんに相談してね、地域ごとに一人ずつ人を出してもらったのですが、本当に素晴らしい人が集まりました。

——朝の式典は五時五〇分からで、宮出しが六時半。夕方の宮入は何時だったのですか。

**内野** 十六時三十五分。高齢の方もいたんでね（笑）、みんな疲れ切っていましたよ。後ろ姿で疲れてるってわかんんだもの（笑）。

——いろいろ気を遣われることも多かったでしょう。

**内野** 今回はあの太鼓にAEDも積んだんですよ。万全の体制で臨みたいといけないですから。台車の車輪に轢かれてケガをすとかって、他ではよくあることなんですよ。小型のバットみたいなバチで打つのですが、中途半端にやっていると、バチが跳ね返って自分の額に当たってしまうことがありますし。

——あ、ピンピンに張っているからバチが跳ね返るんですね。自分で打ったそのバチでケガをする。

**内野** 何事も中途半端はケガの元です。一打一打思いを込めて打つのが本当なんです。音で邪鬼を払いますから。お神輿には太鼓が付き物ですよ。太鼓の音で浄めていくわけです。

——なるほど。よくわかりました。では、来年はお神輿が出るという

社の山門を通して出ていく太鼓

代表による打ち初め（打っているのは内野さん）



内野良一さん 内野建設株式会社で撮影



## 内野良一さん

内野建設株式会社 代表取締役社長。祖父が東大和市の蔵敷から五日市街道沿いに移り住み良一さんで三代目、96年目を迎えている。阿豆佐味天神社砂川の太鼓会「一纏」会長として、令和元年阿豆佐味天神社例大祭の指揮をとった。立川消防少年団団長でもあり、本年5月からは立川消友会会長でもある。

——太鼓の革部分は一頭の牛ですよ。あんなに大きな牛がいるのですか？

**内野** もちろん一頭です。貼り合わせることはできませんから。大きい牛はいますし、ピンピンに伸ばしますからね。あのくらいの大鼓になると「叩く」とは言わず、「打つ」と言います。我々は素人ですから、打つ練習をしないと打てないですよ。あれだけ大きいと跳ね返りも強いし、音も出ないし。練習は晝表を太鼓の革に見たてて、去年の五月からやっていました。

——太鼓の会の「一纏」は、いいお名前ですね。

**内野** いい名前でしょう？ ひとつに纏まる（まと）という意味ですからね。各

ことでしょうか。

**内野** どうでしょうねえ。難しいところですね。今はどこでも担ぎ手が少ないですからね。

——そうですね。太鼓も素晴らしかったけれど、例年お神輿が宮入してくる時のあの熱気はすごいですよ。

**内野** あの頭の中が真っ白になる瞬間ね。今年は一纏の会長をさせていただきましたが、昨年はお神輿の副会長だったんです。ちょうど宮入の時間帯は夕陽がまっすぐ西にかかる頃で、その時に七番組のお神輿がとてきれいで、黄金に輝いていたんですよ。感慨深かったですね。

——そうでしたか。太鼓巡行は、最初が南砂でした。

**内野** そう。十二地区を廻らせていただいたんですが、千人近く集まったんじゃないですかね。みなさん、喜んでいましたよ。私はいろいろな役を行ってききましたが、今回は一番厳しかったですね。

——そうでしたか。

**内野** この歳になってやったことのないことを立ち上げるというのは大変ですよ。暗中模索というんでしょうかね。大國魂神社へも行きましたし、三鷹の古八幡神社では三年続けて研修させていただきました。今年是一般会員も一緒に研修に行ったのですが、通えば通うほど太鼓巡行の難しさがわかりましたね。

——傍目には簡単に曳いているように見えていました。

**内野** 五ミリの突起があると、もう動かないんですよ。曳く人が慣れない場合には舵取りもとても大事になってきます。

——そうかがうと、改めて無事に終わって本当によかった。**内野** 一人ケガ人が出たら、来年やれたかどうかわからなかったですね。「百年後の「纏」を目指して」をスローガンにやってきましたから、そこは大事でした。会員、役員が一つになったからこそ成功だったと思います。

巡行の様子



## 阿豆佐味天神社太鼓

太鼓径 5尺2寸 (1,576cm) 太鼓長さ 6尺9寸 (2,091cm)  
 台車幅 4尺4寸5分 (1,348cm) 台車長さ 9尺8寸 (2,969cm)  
 台車高さ 2尺4寸5分 (742cm)  
 車軸長さ 7尺4寸 (2,242cm) 車輪外々 6尺6寸 (2,000cm)  
 太鼓上端高さ 8尺8寸5分 (2,682cm)  
 最大長さ 3,269cm 最高高さ 2,732cm  
 太鼓+台車総重量 約2.5t (立川同心会太鼓は約1.8t)

※太鼓の勇壮な音は多摩てばコネット

巡行開始前の儀式





# さようなら そして ありがとう

## 歴史を閉じる路面店

令和元年9月30日。ふたつのお店が閉店しました。

いずれも月刊えてびあんの配布店。

長い間、本当にありがとうございました。

### 中島豆腐店

(羽衣町)

「時代の流れには逆らえない。今日まで営業できたのが奇跡」と中島豆腐店さん。昭和32年の開店以来、ずっとこの場所でお豆腐を作り続けてきました。月刊えてびあんの表紙「立川で三代」に登場いただいたのが2010年。5人のお子さんのうち、誰か1人くらいは豆腐屋さんを継ぐのかなと思っていましたが、それぞれ豆腐屋さんではない道を歩み始めました。昭和の時代は、自家製の豆腐を朝早くから対面販売するのが当たり前。大手食品加工業の台頭は、競争入札で他を圧倒します。個人店の良かった時代も厳しくなった時代も経験して、看板を下ろすことになりました。「お客さんのおかげです、本当に感謝しかありません」と、向けたカメラにもご夫婦で頭を下げた中島さんでした。

### ひがしミート

(柴崎町)

「消費税が上がるのをきっかけに、今度はきれいさっぱり辞めることにした」とひがしミートさん。ご主人の病気で名物の土曜限定焼き鳥がなくなって数か月。それでもお母さんが揚げてくれるコロッケやメンチ、トンカツが欲しくて夕方になると行列ができていました。なんたってお肉の美味しさには定評がありました。豚だって牛だって、修業を積んだ目利きのお父さんが仕入れるのだから間違いがない。それを知っているお客さんは、暮れにはお正月用に特別注文をしていたものです。昭和43年柴崎町にお店を持って、街のお肉屋さんとして親しまれてきたひがしミート。第一小学校の児童が感謝状をお届けしました。小学生にも残念がられながらの閉店でした。



最後になった焼き豆腐作り。  
最盛期には一度に千個も作っていました。



お豆腐の味がしっかりしている厚揚げ。  
他では食べられない味でした。



「本当にありがとうございました」



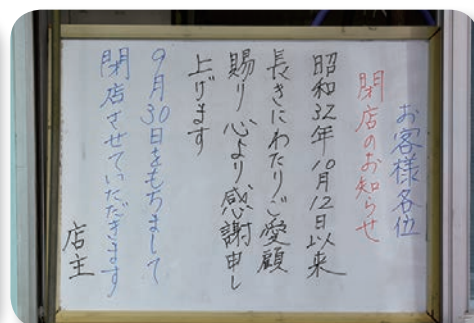
諏訪神社のお祭りにはお子さんもお孫さんも総出で手伝い



お父さんが入院されてから1人で切り盛りしてきたお母さん



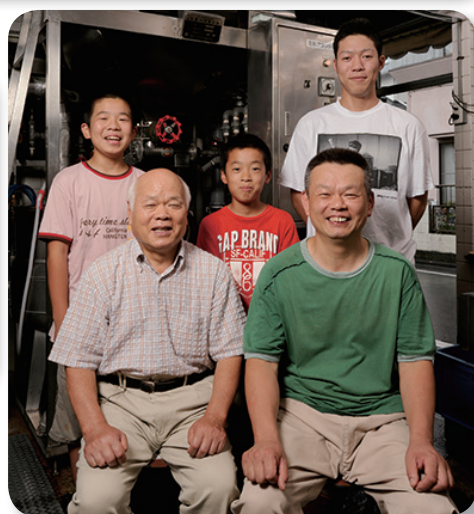
第六小学校の児童が描いた中島豆腐店のポスター



第一小学校の児童の代表が感謝状を読み上げて、手渡しました。



表紙モデルになった写真を家族でのぞき込む  
(2010年当時)



月刊えてびあんの表紙モデルになった日  
(2010年7月7日)



お父さんの焼き鳥は格別でした。



土曜日限定の焼き鳥風景



瀬尾さんご夫妻 ご主人はただいまリハビリ中







多摩立川保健所の野菜企画も8回目。人が必要なカルシウムやカリウム、ビタミンC、食物繊維などの栄養素を十分確保するためには、1日 350g の野菜を食べることが望ましい。でも都民の平均摂取量は 305g で、あと一皿のお野菜が欲しいところ！そこを補ってくれるのが、多摩立川保健所の「野菜メニュー店」。今月はビーガンレシピのほっこりカフェさん。厳選された材料で作るお料理は、どれもこれも見た目には美しく、舌にはおいしく体が喜ぶものばかり。季節の野菜はうま味の宝庫。その味を十分に引き出す腕がまたいい！黒いカレーはちゃんとカレーの味がするし、ご飯はもちもちとした酵素玄米。サラダは「見て、見て！」と叫びたくなる美しさ。この日デザートにお願いしたのは「はったいこジェラート」。昔懐かし麦粉菓子が食感を変えての登場。何をいただいても野菜たっぷりのお店です。

黒カレー 1250円  
野菜の量 145g と  
サラダプレート  
(白いカレーも  
あります)



## 野菜はいっぱい食べやさい

⑧

監修：東京都多摩立川保健所



はったいこジェラートと桑茶



### ほっこりカフェ

立川市柴崎町 2-5-8  
TEL 042-595-8379  
営業時間 11:30 ~ 19:00  
定休日 火曜日、水曜日